

加藤一佳教授のご定年によせて

— 思い出の記 —

青木 秀雄

加藤一佳先生は、早稲田大学第一文学部および大学院で恩師であった故兄玉三夫先生の要請に応え、誠心誠意最期までご尽力され、要職にあって今日の明星大学並びにいわき明星大学発展の礎を築いてこられた。先生に対する三夫先生の信頼には、終始極めて厚いものがあつた。この度先生のご退職に当たり、長年にわたるご貢献とご厚誼に対し衷心より敬意を表するとともに、厚く感謝申し上げつつ下記の餞をお贈りしたい。

先生は1971年、明星大学秘書室に就任された。聖徳学園短期大学の専任講師兼教務課員として将来を嘱望されていたところ、当時、明星大学副学長であった三夫先生が訪ねられた。「大学の運営に多忙を極めている。なんとか手伝ってもらえないか」と懇請されたのであつた。「そのときの後ろ姿が、疲れが滲み出て、なんとも寂しげであつた」と、私の秘書室勤務時代に述べられていたのを覚えている。8月1日というご着任は、前任校の理事長が退職願を受理しなかつたことによる。(在職期間が節目の40年に満たないのは誠に残念。)草創期の、未だ不安定な明星大学に来られる決意には並々ならぬものがあつたと想われる。

私事にわたるが、先生との邂逅は、アフリカのコンゴ民主共和国にあつた、出向先の明星小学校の夏季休暇に一時帰国した1972年7月であつた。兄玉九十先生の学長秘書として、何かと世話を焼いてくださった。その次にお会いしたのは、3年半の教諭の仕事を終了し、留学から一時帰国した1974年9月であつた。同年10月26日に挙行予定の、明星大学創立10周年記念行事の準備で秘書室は多忙この上なかつた。結局休職を解かれ、秘書室主任の加藤先生の下で奉職することとなつた。4年半の海外生活から帰国したばかりの当時の私は、地に足が着いていない状態であつた。様々にご迷惑をおかけし、忸怩たるものがある。先生はいつも見守ってくださり、本学図書館主任に移動されるまで、九十先生・三夫先生の手塩とともに育てていただいたことに心から感謝している。

兄玉三夫先生は、1978年に創立者兄玉九十学長の後を継いで第2代学長に就任された。兄玉記念図書館を育てることに正にいのちをかけておられた。シェイクスピア文庫やリンカーンセンターの蔵書を世界有数のものに育て上げる決意と情熱を注いでいた。その図書館の実務責任者として1980年より、三夫先生のご決意に応え、全力を傾けてこられた。その結果、特色のある図書館として急速に内外に有名になっていった。

1984年には明星大学創立20周年記念行事の一環として、明星大学東京リンカーンセンター所蔵の稀観資料を一堂に展示した「リンカーン一人とその時代展」がアメリカ大使館後援のもと、日本橋・三越本店で1週間開催された。そのための準備と実施のご苦勞は並大抵のものではなかつた。その甲斐あつて、故M. マンスフィールド駐日米国大使ご夫妻も来

場され、入場者約2万人に達したことに、三越の担当者も驚嘆されていたのを思い出す。また、この年の前後に公開された、同センターやシェイクスピアコレクションを中心とする図書館所蔵の稀観書目録の編纂を主任として担われた。

このような多忙を極める業務に携わって大学の運営に貢献されながら、他方で人文学部非常勤講師、心理・教育学科助教授を経て同教授として教育と研究に精力を傾けてこられた。さらに、いわき明星大学の創設時、教授兼総務部部長に就任された。同大学の設立は、これも三夫先生が長年かけた夢であった。そこにまた、事務局の要としてその運営立ち上げのために赴任を懇請されたことは、先生がいかに信頼されていたかを物語っている。

いわき明星大学の最初の総務部長として、1987年4月より2期卒業生を出すまで先頭に立ち、同大学発展の基盤固めに邁進された。創設間もない大学の日常業務が慌ただしいなか、同年10月14日には同大学開学式を挙行し、ギリシャ文化庁から贈られたブロンズの「平和の像（エリーニ）」の序幕式と校歌が披露された。また、中学・高校の教職課程や図書館司書、社会教育主事、学芸員資格、および大学院理工学研究科と人文学研究科の設置申請業務に多忙を極めた。大学経営基盤が確立し、初代児玉三夫学長から第2代鈴木辰三郎学長へと引き継がれたのを期に、翌年明星大学に戻られた。単身赴任の身に激務が重なり、体調を崩された。その尋常ならざるご尽力には敬服するばかりであった。

ご研究面では、ダーウインの「進化」という概念を社会思想として提唱した、イギリスの哲学・社会学者であって、明治時代の日本の教育に大きな影響を与えたハーバード・スペンサーについて、特に、彼の進化と文明の発達論に関する教育学的視座により、優れて慧眼に満ちた考察を展開した。最近では、日本の地域における教育力に関連する研究から、学校教育における児童生徒のいじめ自殺事件や学校事故判例に関する研究に範囲を広げておられる。

学校行事や特活が果たしてきた、人格教育における効果には計り知れないものがある。学校や教師は、萎縮したり臆したりすることなく、児童生徒の人間的な成長を期待して意欲的に取り組む必要がある。しかし、このような教育活動には常に不慮の事故が付きまとう。したがって、多くの困難な問題を孕んでいるといえよう。

学校教育に対する保護者の不当な要求が顕著な今日、ようやく日本においても、地域に開かれた信頼される学校づくりを進めるため、保護者や地域住民等が一定の権限と責任を持って学校運営に参画できる学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の導入が進みつつある。そこで特に、学校・教師が果たすべき安全保護義務についての実証的考察は、学校教育に収斂されてきた過大な責任の増大という憂慮すべき状況において、多くの示唆に富んだ見解が垣間見える。退職されてからもこのご研究を続けられ、今後の学校・家庭・地域における広い意味での教育力向上のための攻究を發表していただきたい。

お身体の不調は長時間の散歩やジョギングによって自分で治療され、還暦を過ぎてから自動車運転免許やモーターボート免許を取得し、また古希を前にして自動二輪（普）免許も取られたという。先生との思い出は、一朝には語り尽くせぬものがある。常に沈着冷静、大学の教学・管理事務および教育研究に熱い思いとユーモアを、そのとぼけたような表情に秘めておられる。「三夫先生は本当に身内に厳しかった」ですね。お疲れ様でした。臉上に数々のエピソードが去来する。しかし、紙幅の都合上割愛し、今後ますますのご活躍とご健勝、ご多幸を心より祈りつつ筆をおくこととする。